

2024年度 3月修了 修士論文

バスケットボール競技における
オフェンスリバウンドの奪取数の向上に関する研究
-オフェンスリバウンド上位選手の特徴に着目して-

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科
スポーツ科学専攻 コーチング科学研究領域

5023A037-7

祖父江 卓人

研究指導教員: 倉石 平 教授

目次

I. 諸言	1
1. バスケットボールの競技特性とリバウンド	
2. バスケットボール競技におけるオフENSEスリバウンド	
3. オフENSEスリバウンドに関する事例	
4. 研究目的	
II. 方法	5
1. 分析対象	
2. 分析項目	
1) オフENSEスリバウンドの定義	
2) オフENSEスリバウンド奪取位置	
3) リバウンドの際のオフENSEとディフェンスの位置関係	
4) コンタクトの有無	
3. 分析方法	
4. 統計処理	
III. 結果	11
1. オフENSEスリバウンド奪取位置と回数	
1) ペイント	
(1) コンタクト有り	
(2) コンタクト無し	
2) ペリメター	
(1) コンタクト有り	

(2) コンタクト無し

2. 統計処理

3. オフェンスリバウンド奪取位置の有意

1) ペイント

(1) コンタクト有り

(2) コンタクト無し

2) ペリメター

(1) コンタクト有り

(2) コンタクト無し

4. リバウンド奪取位置と身長の関係性について

IV. 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

1. リバウンド奪取位置におけるオフェンスリバウンド奪取条件

1) ペイントエリアにおけるオフェンスリバウンド奪取条件

2) ペリメターにおけるオフェンスリバウンド奪取条件

2. リバウンド奪取位置と身長の関係性について

V. 結論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

VI. 参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

VII. 付録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

1. 用語

2. 図表

謝辞

I. 諸言

1. バスケットボールの競技特性とリバウンド

バスケットボールは攻守の切り替えが多くボールの所有とシュートの攻防をめぐり、相対する2チームが同一コート内で同時に直接相手と対峙しながら一定時間内に得点を争うゲームであると定義されている¹⁾⁹⁾。

こうしたなかで得点を狙うシュートの成功率は約40%と言われている²⁾⁶⁾¹²⁾²⁹⁾³³⁾³⁴⁾³⁵⁾。そのため、シュートの試投数の約60%がどちらのチームもボールを所有していない状況が起こる¹⁾²⁾²⁶⁾³⁵⁾。ショットの半数以上がリバウンドになるため、ボール所有回数に大きな影響を及ぼすことになる。この際にオフェンス側がボールを奪取すれば再度オフェンスを行う機会を得ることが可能になる。これに対し、ディフェンス側がボールを奪取した場合に相手の得点機会を少なくする可能性が高まり、相手の攻撃回数の減少が期待できる。このことから、ボールの所有権を得るための最大にして最多のチャンスがリバウンドである³³⁾との主張があるように、バスケットボールにおいてはリバウンドの奪取が試合の流れや結果に大きな影響を与えるとされている¹⁵⁾¹⁶⁾¹⁷⁾¹⁸⁾²⁰⁾³⁴⁾³⁵⁾。これらを踏まえ、「リバウンドを制するものは試合を制する」という名言も生まれた¹²⁾¹³⁾。このような背景から、バスケットボール競技におけるリバウンドの重要性が高いと言える。

2. バスケットボール競技におけるオフENSEスリバウンド

バスケットボール競技において、シュート成功率は 40%ほど^{2) 6) 12) 29) 33) 34) 35)}と
言われていることからシュートの半数以上はリバウンドになることが多く、リ
バウンドボールの奪取はボールの保持回数に大きな影響を及ぼすことになり、
リバウンドがゲームに大きな影響を及ぼすことになると言えるだろう。

そのなかでもオフENSEスリバウンドに関しては、吉井(1969)が「オフENSE
スリバウンドの獲得により攻撃回数を増やすことが望ましい」と述べており、
安田(2001)は「勝ちチームは負けチームよりもオフENSEスリバウンドを平
均 7.5 回多く獲得していた。」と述べていることから、オフENSEスリバウン
ドの奪取がゲームを優位に進めていくために重要な要素になると考えられる。

リバウンドに関する先行研究は多岐にわたるものがあり、リバウンドボール
の奪取と試合結果に関する研究^{2) 7) 22) 25) 26) 27) 28)}やリバウンド奪取のための位置
取りやリバウンド落下の予測に関する研究^{6) 9) 21) 30)}、リバウンド奪取のための
技術的要因に関する研究^{11) 19) 33)}、リバウンド奪取のための身体的要因^{9) 24)}など
様々な視点から多くの研究がなされている。

しかし、リバウンドのなかでもオフENSEスリバウンドの奪取数を向上させる
ことの方法及びその現状分析について言及しているものは、僅かしか見当たら
ず、多分に研究の余地が残されていると考える。

3. オフェンスリバウンド獲得に関する実例

リバウンドボールをオフェンスが再度獲得すれば, 攻撃回数が増えることにより得点の機会が増え, 試合を優位に進められる可能性が高まる^{13) 14) 15) 16) 20) 33)}とされている. このようなオフェンスリバウンドに関する先行研究に即した結果が実際の試合結果にも現れている. その実例として公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ (以下「B. LEAGUE」とする) の 2023-24 レギュラーシーズンの全 626 試合におけるオフェンスリバウンドに関するデータ³⁾では付表 1. のような結果が得られた.

この結果から 626 試合中 310 試合でオフェンスリバウンドが多いチームが勝利していることから, オフェンスリバウンドの獲得数が多ければ試合に勝利する可能性が高いことが伺える.

4. 研究目的

一定時間内の得点の取り合いによって勝敗を決めるバスケットボール¹²⁾¹³⁾において、得点機会を増やすということは非常に重要なこと⁶⁾¹¹⁾²⁰⁾³⁴⁾だと考えられる。そのなかでボールの所有回数を増やし、攻撃にそのままつなげることができる¹⁴⁾¹⁸⁾¹⁹⁾オフェンスリバウンド時におけるボールの奪取数の向上ということは全てのチームに求められていることだと考えられる。先行研究では高身長選手がリバウンドに関しては有利とされている¹⁾²⁾²⁷⁾²⁹⁾³¹⁾³⁵⁾³⁶⁾。しかしながら、高身長ではない選手でもオフェンスリバウンド奪取数が多い選手も存在する。そのような選手も含めたオフェンスリバウンドのランキング上位選手のリバウンドにはどのような特徴があり、その特徴を本研究において体系化することによって、オフェンスリバウンドの奪取数の向上方法について明らかにしていくために、オフェンスリバウンド成功時に注視して現状分析を行うことを目的とする。

また、指導者を目指す私としても、現状把握に加え、バスケットボール競技に関する戦術やゲーム構想を考える上で課題を見出し、コーチング現場において一つの確立した指導方針の一助になることを本研究の研究意義とする。

Ⅱ. 方法

1. 分析対象

2023 年の第 99 回関東大学バスケットボールリーグ戦(以下「リーグ戦」と略す)における 1 部全 133 試合を対象とし, そのなかで関東大学バスケットボール連盟のホームページに掲載されている¹⁰⁾ オフェンスリバウンドランキング上位 30 名のオフェンスリバウンド獲得成功時の全シーンを対象として分析を行った.

2. 分析項目

1) オフェンスリバウンドの定義

リバウンドとは, シュートされたボールがゴールしなかったときの状態のことであり, 選手の誰かに触れるかアウト・オブ・バウンズになるまで状態が継続するプレイだとされている. また, 「リバウンド」という状態にあるボールが手に触れたり, バウンドしたり, 床を転がったりした場合でも, 最初にボールをコントロールするプレーもリバウンドだとされている⁴⁾.

このリバウンドのうち攻撃側が奪取したリバウンドをオフェンスリバウンド, 守備側が奪取したリバウンドをディフェンスリバウンドと呼び, 本研究では攻撃側が奪取したリバウンドをオフェンスリバウンドと定義した. また, 本研究においてはオフェンスリバウンドの奪取時のみを注視した. 加えて 2 人以上が関わるオフェンスリバウンドについては研究対象より除外した.

2) オフェンスリバウンド奪取位置

シュートの落下位置について公益財団法人日本バスケットボール協会(以下「JBA」とする)(2017)は,「ウィング付近からのシュートでは,リバウンドボールは70%~75%の確率で反対側に落ちる可能性が高い。」と述べており,内山(2002)は,「正面からのシュートでは正面に落ちる可能性が高い.コーナーからのシュートではシュートされた側か反対側にはねる可能性が高いが,ゴール正面に落ちることもある。」と述べている.

また,先行研究により,シュートがアテンプトされ,外れたボールは3ポイントライン(図3)の外側に落下しないことが報告されており¹⁹⁾²³⁾²⁷⁾³⁶⁾,加えて,外れたボールは制限区域(以下「ペイント」とする)(図4)に集中して落下することも報告されている⁴⁾²²⁾.

このことから,シュートの落下位置としては,主にゴール正面のペイント及び,3ポイントライン内側のペイント以外の区域であるペリメーターエリア(以下「ペリメーター」とする)があげられるだろう.

よって本研究においては,①ペイント,②ペリメーターの2箇所に分けてオフェンスリバウンド奪取位置についての分析を行う.

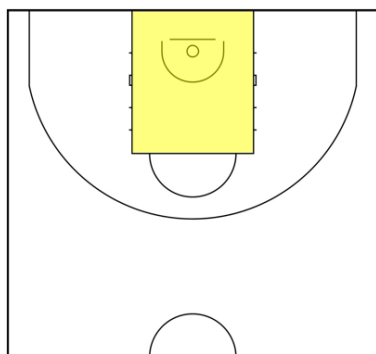


図 1. ペイント

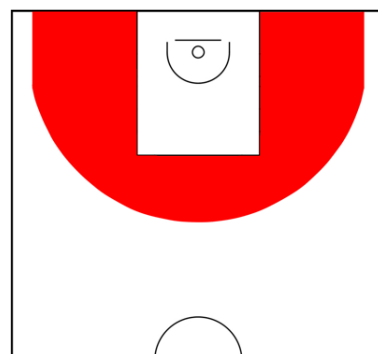


図 2. ペリメーター

3) リバウンドの際のオフェンスとディフェンスの位置関係

JBA（2017）は「ディフェンスは、リバウンドに入ろうとするオフェンスに対して自分の背中部分を相手の胸部分に密着させるブロックアウトを行い、相手の動きを封じる．」と述べているように、ディフェンスはオフェンスにリバウンドを取られることを防いでくる．その際にディフェンスプレイヤーとオフェンスプレイヤーが様々な形で接触をする場合が考えられる．

そこで本研究では、オフェンスリバウンド奪取の際にディフェンスがオフェンスの前にいる場合、ディフェンスがオフェンスの横にいる場合、ディフェンスがオフェンスの後ろにいる場合、オフェンスが飛び込みリバウンドを行う場合の4つに位置関係を分類した．

なお、ディフェンスがオフェンスの横にいる場合に関しては左右の違いは問わず、いずれの位置にいたとしても横と定義した．

オフェンスとディフェンスの位置関係について

● : オフェンスを表す

✕ : ディフェンスを表す

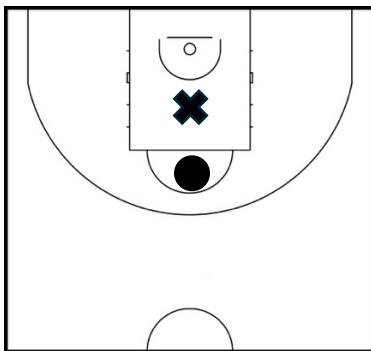


図 3. ディフェンス前

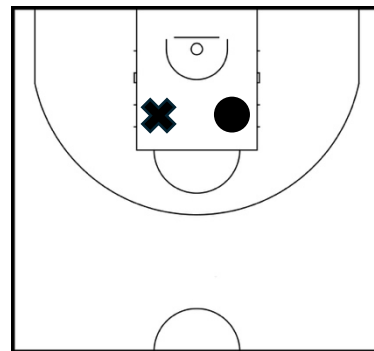


図 4. ディフェンス横

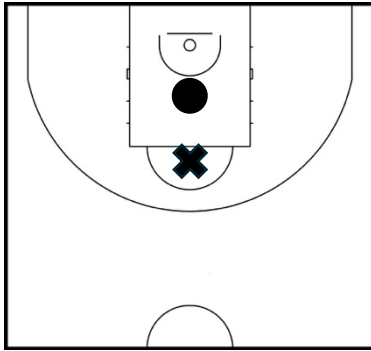


図 5. ディフェンス後ろ

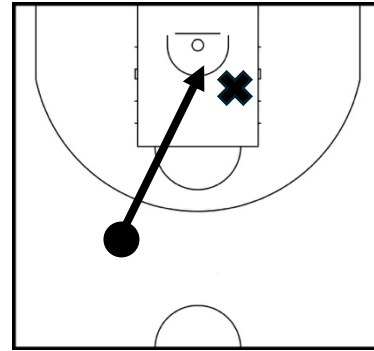


図 6. 飛び込み

4) コンタクトの有無

リバウンドの際のコンタクトの有無について、コート内のいかなるリバウンドのシーンであっても、フロア上での身体を使ったポジション取りが確認された場合にはコンタクト有り、確認されなかった場合にはコンタクト無しとする。

3. 分析方法

映像分析ソフト Nacsport (Basic+), Hudl Sportscode ver12.4.6 を用い, 対象の試合映像を再生しながら各項目のタグをつけるタギングという作業を行い, 各項目をエクセルに集計した. そしてオフンスリバウンド奪取位置に関してはコート縮図にそれぞれプロットした. また, プロットに関しては, バスケットボール競技の経験が 10 年以上の計 4 人で作業を行なった.

4. 統計処理

ペイントとペリメターにおけるリバウンド奪取位置とその際のオフenseプレイヤーとディフェンスプレイヤーの位置関係およびコンタクトの有無についてカイ二乗検定を行い,有意差が認められた場合に下位検定として残差分析を行った.

統計処理には IBM SPSS Statistics 29 を用い,有意水準は 5%未満とした.

Ⅲ. 結果

1. オフェンスリバウンド奪取位置と回数

1) ペイント

(1) コンタクト有り

ペイントにおけるコンタクトが確認された場合のオフェンスリバウンド奪取回数は以下の通りであった(表 1).

表1. ペイントのオフェンスリバウンド総数 (コンタクト有り)

ディフェンス位置	前	横	後ろ	飛び込み	合計
ペイント	272	248	112	52	684

(2) コンタクト無し

ペイントにおけるコンタクトが確認されなかった場合のオフェンスリバウンド奪取回数は以下の通りであった(表 2).

表2. ペイントのオフェンスリバウンド総数 (コンタクト無し)

ディフェンス位置	前	横	後ろ	飛び込み	合計
ペイント	111	80	61	94	346

2) ペリメター

(1) コンタクト有り

ペリメターにおけるコンタクトが確認された場合のオフンスリバウンド奪取回数は以下の通りであった(表 3).

表3. ペリメターのオフンスリバウンド総数 (コンタクト有り)

ディフェンス位置	前	横	後ろ	飛び込み	合計
ペリメター	18	17	0	8	43

(2) コンタクト無し

ペリメターにおけるコンタクトが確認され無かった場合のオフンスリバウンド奪取回数は以下の通りであった(表 4).

表4. ペリメターのオフンスリバウンド総数 (コンタクト無し)

ディフェンス位置	前	横	後ろ	飛び込み	合計
ペリメター	48	29	1	8	86

2. 統計処理

ペイント, ペリメターともにオフenseリバウンド奪取位置の関係についてカイ二乗検定を行った結果, 有意な関連が認められた ($\chi^2=118.953$, $df=7$, $p<0.001$, $V=0.320$) (表 5). また, 有意な関連が認められたため下位検定として残差分析を行った.

表5. リバウンド獲得位置とディフェンスとの位置関係について

コンタクトの有無		ディフェンス位置	ペイント	ペリメター	合計	χ^2_{test}
リバウンド獲得位置	有り	前	272	18	290	$\chi^2=118.953$ df=7
		横	248	17	265	
		後ろ	112	0	112	
		飛び込み	52	8	60	
	無し	前	111	48	159	$p<0.001$ V=0.320
		横	80	29	109	
		後ろ	61	1	62	
		飛び込み	94	8	102	
		合計	1030	129	1159	

3. オフェンスリバウンド奪取位置の有意

1) ペイント

(1) コンタクト有り

ペイントにおけるコンタクトが確認された場合のオフェンスリバウンド奪取条件に対する下位検定として残差分析を行なった(表 6). その結果, ディフェンスがオフェンスの前にいる状態でコンタクトが確認された場合, ディフェンスがオフェンスの横にいる状態でコンタクトが確認された場合, ディフェンスがオフェンスの後ろにいる状態でコンタクトが確認された場合が有意に多くなった.

表6. ペイントのオフェンスリバウンド(コンタクト有り)の残差分析

コンタクトの有無		ディフェンス位置	ペイント	調整済み残差	ペリメター	調整済み残差	合計	χ^2 test
リバウンド獲得位置	有り	前	272	3.1	18	-3.1	290	$\chi^2=118.953$ df=7
		横	248	2.8	17	-2.8	265	
		後ろ	112	3.9	0	-3.9	112	
		飛び込み	52	-0.6	8	0.6	60	
	無し	前	111	-8.2	48	8.6	159	p<0.001 V=0.320
		横	80	-5.4	29	5.4	109	
		後ろ	61	2.4	1	-2.4	62	
		飛び込み	94	1.1	8	-1.1	102	
合計			1030		129		1159	

(2) コンタクト無し

ペイントにおけるコンタクトが確認され無かった場合のオフenseリバウンド奪取条件に対する下位検定として残差分析を行なった(表 7). その結果, ディフェンスがオフenseの後ろにいる状態でコンタクトが確認され無かった場合が有意に多くなった. また, ディフェンスがオフenseの前にいる状態でコンタクトが確認され無かった場合, ディフェンスがオフenseの横にいる状態でコンタクトが確認され無かった場合が有意に少なくなった.

表7. ペイントのオフenseリバウンド (コンタクト無し) の残差分析

コンタクトの有無		ディフェンス位置	ペイント	調整済み残差	ペリメーター	調整済み残差	合計	χ^2 test
リバウンド獲得位置	有り	前	272	3.1	18	-3.1	290	$\chi^2=118.953$ df=7
		横	248	2.8	17	-2.8	265	
		後ろ	112	3.9	0	-3.9	112	
		飛び込み	52	-0.6	8	0.6	60	
	無し	前	111	-8.2	48	8.6	159	p<0.001 V=0.320
		横	80	-5.4	29	5.4	109	
		後ろ	61	2.4	1	-2.4	62	
		飛び込み	94	1.1	8	-1.1	102	
		合計	1030		129		1159	

2) ペリメター

(1) コンタクト有り

ペリメターにおけるコンタクトが確認された場合のオフENSリバウンド奪取条件に対する下位検定として残差分析を行なった(表 8). その結果, ディフェンスがオフENSの前にいる状態でコンタクトが確認された場合, ディフェンスがオフENSの横にいる状態でコンタクトが確認された場合, ディフェンスがオフENSの後ろにいる状態でコンタクトが確認された場合が有意に少なくなった.

表8. ペリメターのオフENSリバウンド (コンタクト有り) の残差分析

コンタクトの有無		ディフェンス位置	ペイント	調整済み残差	ペリメーター	調整済み残差	合計	χ^2 test
リバウンド獲得位置	有り	前	272	3.1	18	-3.1	290	$\chi^2=118.953$ df=7
		横	248	2.8	17	-2.8	265	
		後ろ	112	3.9	0	-3.9	112	
		飛び込み	52	-0.6	8	0.6	60	
	無し	前	111	-8.2	48	8.6	159	$p<0.001$ $V=0.320$
		横	80	-5.4	29	5.4	109	
		後ろ	61	2.4	1	-2.4	62	
		飛び込み	94	1.1	8	-1.1	102	
		合計	1030		129		1159	

(2) コンタクト無し

ペリメターにおけるコンタクトが確認され無かった場合のオフENSスリバウンド奪取条件に対する下位検定として残差分析を行なった(表9). その結果, ディフェンスがオフENSスの前にいる状態でコンタクトが確認された場合, ディフェンスがオフENSスの横にいる状態でコンタクトが確認された場合が有意に多くなった. また, ディフェンスがオフENSスの後ろにいる状態でコンタクトが確認された場合が有意に少なくなった.

表9. ペリメターのオフENSスリバウンド (コンタクト無し) の残差分析

コンタクトの有無		ディフェンス位置	ペイント	調整済み残差	ペリメター	調整済み残差	合計	χ^2 test
リバウンド獲得位置	有り	前	272	3.1	18	-3.1	290	$\chi^2=118.953$ df=7
		横	248	2.8	17	-2.8	265	
		後ろ	112	3.9	0	-3.9	112	
		飛び込み	52	-0.6	8	0.6	60	
	無し	前	111	-8.2	48	8.6	159	p<0.001 V=0.320
		横	80	-5.4	29	5.4	109	
		後ろ	61	2.4	1	-2.4	62	
		飛び込み	94	1.1	8	-1.1	102	
合計			1030		129		1159	

4. リバウンド奪取位置と身長の関係性について

本研究においてオフェンスリバウンド奪取位置の分類としてペイントとペリメターの2箇所を取り上げたところ,それぞれの項目におけるオフェンスリバウンド奪取者の平均身長に特徴があることが分かった. ペイントおよびペリメターにおける身長の特徴としては,表10.の通りの結果となった.

表10. 各分類の平均身長 (cm)

コンタクトの有無	ディフェンス位置	ペイント	ペリメター
有り	前	199.4	188.5
	横	197.8	189.1
	後ろ	198.1	187.7
	飛び込み	190.6	186.9
無し	前	198.8	187.6
	横	197.8	186.7
	後ろ	197.5	186.9
	飛び込み	189.1	186.1

IV. 考察

1. 奪取位置におけるオフェンスリバウンド奪取条件

1) ペイントにおけるオフェンスリバウンド奪取条件

本研究において、オフェンスリバウンド奪取条件で最も奪取回数が多かった項目は、ディフェンスがオフェンスの前にいる状態でコンタクトが確認された場合であり、次いでディフェンスがオフェンスの横にいる状態でコンタクトが確認された場合であった。このようにペイントにおけるオフェンスリバウンドの奪取回数が多い点に関しては、先行研究(内山, 1988; 八板, 2017)と同じ結果となった。このような結果になった背景にはシュートの落下地点に関して次の要因が考えられる。

その要因とは、シュートの打った位置によって落ちる範囲を予測できるという考え方である。JBA (2017) は、「ウィング付近からのシュートではリバウンドボールは 70%~75%の確率で反対側に落ちる可能性が高い」と述べている。その他にもシュートのリバウンドは、ゴールより 4.20m のエリアにその 8割強が集中すること⁷⁾や、3 ポイントシュートであっても、ノーチャージセミサークルよりゴールに近いエリアに 57.2%のリバウンドボールが落下している²¹⁾²⁷⁾などとあるように、シュートの落下位置の大半は 5m 以内のエリアに落ちる⁸⁾²¹⁾²⁷⁾という点で先行研究においても共通点がみられる。ゴールから 6.25m 以上遠くにリバウンドボールが落下することはない¹³⁾²⁷⁾とされていることから、シュートの落下位置がペイントになる可能性が非常に高いことから、オフェンスリバウンドの奪取数が多い場所としてペイントが多くみられる結果となったと考えられる。

また、ペイントのリバウンドにおけるコンタクトの有無について、ディフェンスがオフェンスの前や横にいる状態で互いのコンタクトが確認された場合

が最も多くみられた点に関しては、シュート落下位置として最も多いペイントへのオフェンスの侵入を防ぐために、ディフェンス側もリバウンドに参加することになる。この際に相手プレイヤーとゴールの間にポジショニングして背中で相手の体にコンタクト(接触)する「ボックスアウト」が発生する

5) 12) 13) 28) 32) 34) ことから、ディフェンスとオフェンスが互いにコンタクトをしている状態が多く確認されることになったと考える。

上記を踏まえ残差分析を行なったところ、ディフェンスがオフェンスの前にいる状態でコンタクトが確認された場合、ディフェンスがオフェンスの横にいる状態でコンタクトが確認された場合、ディフェンスがオフェンスの後ろにいる状態でコンタクトが確認された場合の3つが有意に多いという結果となった。このことから考察すると、倉石(2016)が「ペイントエリアにおいてはリバウンドボールが落下する可能性が高く、ゴール近辺の場所をどれだけ占有できたかが、リバウンド奪取数に大きく影響する」と述べているように、ペイントではオフェンスもディフェンスも互いにリバウンドボールの奪取のために競い合うことになる。その際にオフェンスはボール奪取のためにペイントにおいてリバウンドへ参加することとなり、ディフェンスはそれを防ぐためにポジション取りを行うことから、自らのマッチアップマンとフロア上での身体を使ったポジション取りである「ボックスアウト」が行われる。この際にオフェンスとディフェンスとの間にコンタクトが発生することから、本研究の結果のようにペイントにおいてはオフェンスとディフェンスがコンタクトをしている状態が多く確認され、その結果に対して有意に多くなったと考える。

また、コンタクトが発生するなかでオフェンスリバウンドに参加する際に、ディフェンスよりもポジション取りを優位にするために身体を使った位置取りやディフェンスが後ろの場合にはディフェンスを抑え込む^{12) 13)}などの、リバウンド奪取のための技術が必要になってくると考える。

よって、ペイントにおけるオフェンスリバウンドに関しては、コンタクトが発生する状況下においてもリバウンドへ参加し続けることが重要であると推察される。

2)ペリメターにおけるオフェンスリバウンド奪取条件

次に、オフェンスリバウンド奪取条件のなかでもペリメターにおいて奪取回数が多かった項目は、ディフェンスがオフェンスの前にいる状態でコンタクトが確認され無かった場合であり、次いでディフェンスがオフェンスの横にいる状態でコンタクトが確認され無かった場合であった。

ペリメターにおけるオフェンスリバウンドの奪取数が多くみられた条件に関しては、ペリメターは落下してくる際に弾かれたボールやゴール下エリアのポジション争いを超えるロングリバウンドになるボールを奪取しやすいエリア¹¹⁾¹⁸⁾³¹⁾とされている。比較的低身長 of プレイヤーでも接触を伴わずに奪取することができるリバウンドの種類が多く発生した³⁵⁾とされていることから、オフェンスとディフェンスにコンタクトが確認されない場合におけるオフェンスリバウンドの奪取回数が多くみられたと考えられる。

また、ペリメターにおいても残差分析を行なったところ、ディフェンスがオフェンスの前にいる状態でコンタクトが確認され無かった場合に最も有意差がみられた。この要因としては、ペリメターに落下してくるリバウンドボールはロングリバウンド³⁴⁾³⁵⁾が多い傾向にあることから、ディフェンスがボックスアウトを行っていない状況下におけるリバウンドシーンが多く発生していたために、コンタクトが確認されない状態のリバウンドが多くなり、その結果に対して有意に多くなったと考えられる。

このペリメターにおけるオフェンスリバウンドの特徴として、John Wooden (2000)は、「ルーズボールを素早く追いかけてボールの保持を奪還し

たり, 背後に位置するセーフティと協働して多くのチャンスを作り出すことができる」と述べていることから, ペリメターのオフェンスリバウンドの際にはリバウンドボールの落下地点にいち早く向かうことが重要だと推察される.

リバウンドボールの落下位置の把握について, 日常的にリバウンドボールの軌道について観察を行い¹⁸⁾, 判断力を磨くことが重要である²⁾²⁰⁾と考えられているように, 日頃からボールの落下地点についての判断力を磨くことが求められると考えられる.

2. リバウンド奪取位置と身長の関係性について

ペイントにおけるオフェンスリバウンドについて, JBA (2019) が「身長が高いことがリバウンド獲得のために有利」と述べており, 八板 (2017) は「ペイントエリアにおけるプレイが多い長身プレイヤーはリバウンド獲得をする機会が多くなる」と述べているように, 本研究においても先行研究同様の結果が得られた. その結果を踏まえ, ペイントではオフェンスとディフェンスのコンタクトが多くなることや高いところにあるゴールにより近いプレイヤーが有利になりやすいことから, ペイントにおけるオフェンスリバウンド奪取の際には身長が高いプレイヤーが多くなることが考えられる.

また, ペリメターにおいては, 八板 (2017) が「ペイントエリア外においてはボックスアウトなどによって相手プレイヤーと接触する可能性が低い」と述べているように, ボックスアウトなどによって発生することになるコンタクトが少なく, アウトサイドにいる比較的身長が小さい選手もリバウンド奪取を行いやすいということが考えられる. 本研究においても先行研究同様の結果が得られたことから, ペリメターにおけるオフェンスリバウンド奪取成功者の平均身長はペイントにおけるオフェンスリバウンド奪取成功者と比較して, 身長が低いプレイヤーが多くなることが考えられる.

V. 結論

本研究は、オフェンスリバウンドのランキング上位選手のリバウンドにはどのような特徴があり、その特徴を体系化することによって、オフェンスリバウンドの奪取数の向上方法について明らかにしていくために、オフェンスリバウンド成功時における現状分析を行い、今後のコーチングの一助となることを目的とした。

オフェンスリバウンドの奪取条件において、ペイントではディフェンスがオフェンスの前にいる状態でコンタクトが確認された場合が最も多く、次いでディフェンスがオフェンスの横にいる状態でコンタクトが確認された場合において、オフェンスリバウンドの奪取が多い結果となった。また、ペリメターではディフェンスがオフェンスの前にいる状態でコンタクトが確認されなかった場合が最も多く、次いでディフェンスがオフェンスの横にいる状態でコンタクトが確認されなかった場合において、オフェンスリバウンドの奪取が多い結果となった。

これらの結果に対してカイ二乗検定を行い、有意な関連がみられたことから下位検定として残差分析を行ったところ、ペイントに関してはディフェンスがオフェンスの前にいる状態でコンタクトが確認された場合、ディフェンスがオフェンスの横にいる状態でコンタクトが確認された場合、ディフェンスがオフェンスの後ろにいる状態でコンタクトが確認された場合の3つが有意に多いという結果となった。また、ペリメターにおいても残差分析を行なったところ、ディフェンスがオフェンスの前にいる状態でコンタクトが確認されなかった場合が有意に多いという結果となった。

以上のことから、ペイントにおけるオフェンスリバウンド奪取の際にはディフェンスとのコンタクトが発生する可能性が極めて高く、ペイントのオフェ

ンスリバウンド奪取に関しては、コンタクトがあるなかでリバウンドを取りきる必要が出てくると考えられる。そしてペリメターにおけるオフェンスリバウンド奪取の際にはコンタクトが発生しない場合が多く見られたことから、ペリメターはロングリバウンドの落下地点になることが多く、シュート発生時にペイント外にいるオフェンスは外れたリバウンドボールの軌道や落下地点を見極め判断し、リバウンドに参加することが求められると考える。

各分類のオフェンスリバウンド奪取者についての平均身長を調べたところ本研究においては、JBA（2019）が、「ペイントエリアでは高身長選手が有利になる」と述べているように、身長が高いプレイヤーがリバウンドを獲得しやすいという傾向があることが本研究においても再確認できた。また、ペリメターにおいては比較的到低身長プレイヤーでもリバウンドが取りやすいということを示唆する結果が得られた（表 10.）。

本研究ではオフェンスリバウンド奪取における現状分析は行ったものの、オフェンスリバウンド奪取後のシュートを決めるまでの過程やオフェンスリバウンド失敗時における特徴などといった細部までは研究できていない。そのため、オフェンスリバウンド奪取のための方法論については現時点では断言できない。今後の研究では、複数のシーズンからデータを蓄積すること、オフェンスリバウンド奪取後のシュート成功率やその特徴、大学以外のカテゴリーにおけるオフェンスリバウンドの状況を把握することなどが課題としてあげられる。また、本研究では大学の男子リーグ戦のオフェンスリバウンドランキング上位 30 名に焦点を当て研究を行ったが、より詳細なデータ分析を行うためにも今後はさらに試合数を計上する必要があるだろう。

VI. 参考文献

- 1) 案浦知仁, 青柳領, 片桐章光, 長嶺健, 田川博久, 小津和俊洋 (2020) 大学女子バスケットボールゲームにおけるディフェンス リバウンド獲得へのコート占有とボックスアウトの貢献度. 日本経大論集, 49(2):73-86.
- 2) 案浦知仁, 青柳領, 片桐章光, 長嶺健, 田川博久, 小津和俊洋, 大山泰史 (2020) バスケットボールのリバウンドに関するゲーム分析的研究. 日本経大論集, 50(1):137-152.
- 3) B. LEAGUE “日程結果” 2023-2024 シーズン.
<https://www.bleague.jp/schedule/?year=2023&mon=10&day=&event=&club=&tab=1&ha=&fb=>.
(最終閲覧日: 2025/01/04) .
- 4) Christos, K., Dimitrios, L., Christos, G., Georgios, K., and Nikolaos, S. (2020) Effect of offensive rebound on the game outcome during the 2019 Basketball World Cup. Journal of Physical Education and Sport, 20(6):3651-3655.
- 5) FIBA STATISTICIANS' MANUAL 2018: pp. 7-10.
- 6) 藤田将弘, 小谷究, 芦名悦生 (2015) バスケットボール競技におけるシュート成功率向上のための 練習の検討: ピックプレイに着目して. 日本体育大学紀要, 44(2):37-46.
- 7) 後藤幸弘, 岩城真介 (2006) バスケットボールにおけるリバウンドボール獲得形相と勝敗の関係兵庫教育大学研究紀要, 29:145-157.
- 8) ハル・ウィッセル (1999) バスケットボール勝利へのステップ. 大修館書店, pp. 96-98.

9) 石橋千征, 加藤貴昭, 永野智久, 仰木裕嗣, 佐々木三男 (2013) バスケットボール戦術下でのリバウンド行為中における熟練者の視覚探索活動. スポーツ産業研究, 23(1):45-53.

10) 関東大学バスケットボール連盟ホームページ

https://www.kcbbf.jp/game/stats/type/league/year/2023/league_id/350/search/player/sort/reb_or.

(最終閲覧日: 2025/01/03) .

11) 小谷 究・清水 貴司・松尾 晋典(2011)ボールにおけるリバウンドについての研究—シュート位置とリバウンドボール獲得位置の関係について— 社会情報学研究 , 17:63-75.

12) 公益財団法人日本バスケットボール協会. (2019) バスケットボール指導教本改訂版上巻. 大修館書店:東京, pp. 88-91.

13) 公益財団法人日本バスケットボール協会. (2017) バスケットボール指導教本改訂版下巻. 大修館書店:東京, pp. 74-79.

14) 倉石平(2003) 倉石平の” 21 世紀は NBA から学ぼう “. 日本文化出版, p. 48.

15) 倉石平(2009)バスケットボール困ったときの処方箋:チームを修正するためのドリルとチェックポイント オフense/ディフェンス. ベースボール・マガジン社, pp. 47-48.

16) 倉石平(2015)バスケットボールを極める:「攻めろ」「守れ」「走れ」では解決できない指導者の悩みを理論的に解消!. 日本文化出版, pp. 130-132.

17) 倉石平・田渡優(2016)バスケットボールの科学. 洋泉社, pp. 50-51.

18) 倉石平・田渡優(2018)バスケットボール 勝つためのオフenseの教科書. 洋泉社 MOOK, p. 74.

- 19) 皆川孝昭・内山治樹・吉田健司(2007)バスケットボール競技の「トランジション」におけるチーム戦術に関する一考察:空間に着目した攻撃の優先順位について. スポーツ方法学究, 21(1):17-27.
- 20) モーガン・ウットゥン(1994)バスケットボール勝利へのコーチング. 大修館書店, p. 86.
- 21) 森田重貴 (2023) バスケットボールゲームにおけるリバウンドボールの落下位置についての研究: コートデザイン変更後のリバウンドボール落下位置に着目して. 尚美学園大学スポーツマネジメント研究紀要, 6(12):36-37.
- 22) Naismith, J (1980) バスケットボールその起源と発展. 日本 YMCA 同盟出版部.
- 23) 大神訓章・児玉善廣・野寺和彦・金享俊 (2012) バスケットボールゲームにおけるシュートのブレに関する分析的研究. 山形大学紀要, 15:279-280.
- 24) 大神訓章, 佐々木桂二, 児玉善廣, 吉田健司(2006)バスケットボールゲームにおける高さとうまさによる分析的研究-アテネオリンピックにおけるアメリカ男子 チームの戦力分析-. 山形大学紀要(教育科学), 14(1):35-47.
- 25) Ribas, R.L., Navarro, R.M., Tavares, F. and Gómez, M.A. (2011) An analysis of the side of rebound in high level basketball games. International Journal of Performance Analysis in Sport, 11(2):220-226.
- 26) 佐々木三男 (1980) 女子バスケの勝因分析. 体育研究所紀要, 20(1):15-35.
- 27) 柴田雅貴・武井光彦・内山治樹(2002)バスケットボールにおける 3 ポイントシュートのリバウンドボールの落下位置についての再検討. 筑波大学体育科学紀要, 25:23-29.

- 28) 田方慎哉・青柳領・小牟礼育夫・大山泰史・木村和希 (2017) 大学バスケットボールにおける得失点差とディフェンスプレイの因果分析. バスケットボール研究, 3:19-22.
- 29) 高橋清 (2010) バスケットボールにおけるリバウンドボールが勝敗に及ぼす影響. 太成学院大学紀要, 12:67-71.
- 30) 武井光彦, 江田昌佑, 日高明 (1984) バスケットボールのリバウンドボール獲得についての一考察. 大学体育研究, 6:27.
- 31) 内山治樹 (1988) バスケットボールにおける 3 点シュートのリバウンドボールの落下位置に関する研究. 埼玉大学紀要教育学部, 36:75-87.
- 32) ジョン・ウドゥン, J 武井光彦監修 内山治樹他訳 (2000) UCLA バスケットボール. 大修館書, pp104-116.
- 33) 山口良博 (2015) バスケットボールにおけるオフENSリバウンド獲得後の攻撃状況について. 駒澤大学総合教育研究部紀要, 191-203.
- 34) 八板昭仁, 青柳領, 大山泰史, 川面剛 (2018) バスケットボールのゲームにおけるリバウンドボール獲得に関する諸要因のクラスタリング. 九共大紀要, 9(1):24-31.
- 35) 八板昭仁・青柳領・大山泰史・野寺和彦 (2017) バスケットボールのゲームにおけるリバウンドボール獲得に影響する要因と獲得プレイヤーの類型化. バスケットボール研究, 3:1-16.
- 36) 吉井四郎 (1969) スポーツ作戦講座 1 バスケットボール. 不昧堂出版:37-59.
- 37) 安田昭子, 伊藤淳 (2001) . バスケットボールゲームの攻防チャレンジ要因に関する研究. 天理大学学報, 200:39-57.

VII. 付 録

1. 用語

1) アウト・オブ・バウンズ

球技において競技場として定められている範囲をボールやプレーヤーが越えた状態を指す¹²⁾. バスケットボール競技においては, ボールがコート外に出たり, バックボードの裏や支柱などに当たったりした場合を示す¹²⁾.

2) オフェンスリバウンド

オフェンスリバウンドについては, シュートされたボールがゴールしなかった場合に攻撃（オフェンス）側の選手がボールを奪取するプレイ¹²⁾¹³⁾をオフェンスリバウンドと定義する.

3) ディフェンスリバウンド

ディフェンスリバウンドについては, シュートされたボールがゴールしなかった場合に守備（ディフェンス）側の選手がボールを奪取するプレイ¹²⁾¹³⁾をディフェンスリバウンドと定義する.

4) 飛び込みリバウンド

飛び込みリバウンドについては, リングに弾かれて落ちてくるボールに合わせて, タイミングよく飛びつくプレイ¹²⁾¹³⁾とされている. 外から助走をつけることでジャンプに高さが出ることから, 身長が高い選手よりも先にリバウンドを狙うことができる³²⁾とされている.

5) ボックスアウト

ボックスアウトについては, ゴール下の地域を占有するために, 相手をゴール付近に入れないようにするプレイ¹⁴⁾と定義されている.

6) ルーズボール

バスケットボール競技におけるルーズボールは, ライブの状態でどちらのチームもコントロールしていないボールのこと¹²⁾¹³⁾と定義されている.

7) ノーチャージセミサークル

ゴールの真下を中心とする半円のエリアのことで, チャージングやブロッキングに関する特別な規則が適用されるエリアとされている¹²⁾¹³⁾.

2. 図説

付表1. B. LEAGUEにおけるオフェンスリバウンド奪取数と試合結果の実例

勝ちチーム			負けチーム			勝ちチーム			負けチーム		
OREB			OREB			OREB			OREB		
8		○	9			10	○		7		
10	○		7			11	○		5		
7			7			7		○	12		
8		○	9			5			5		
7		○	8			8		○	9		
10	○		7			11	○		8		
7		○	11			5		○	6		
6		○	9			10	○		7		
19	○		8			10	○		7		
13	○		11			5		○	9		
10	○		4			6		○	11		
7		○	10			8	○		5		
5		○	8			11		○	13		
8	○		2			7			7		
8	○		6			16	○		2		
12	○		4			15	○		5		
9	○		3			10			10		
6		○	7			7	○		3		
8		○	12			7		○	15		
10	○		4			31	○		8		
11	○		6			9	○		7		
7			7			7		○	10		
13	○		4			10	○		3		
10		○	12			6		○	10		
6		○	10			12	○		11		
8	○		7			14	○		12		
3		○	6			9	○		4		
3		○	14			14	○		6		
16	○		16			11		○	14		
7		○	13			8		○	10		

勝ちチーム		負けチーム		勝ちチーム		負けチーム	
OREB		OREB		OREB		OREB	
13	○	5		5	○	11	
6	○	4		5	○	6	
12	○	9		12	○	5	
12	○	9		10	○	11	
14	○	7		7	○	2	
2		9	○	6		13	○
5		11	○	6		7	○
11		12	○	11	○	5	
14	○	7		5		6	○
6		8	○	8	○	4	
11	○	5		10		11	○
11	○	6		16	○	5	
10	○	8		12	○	5	
5		8	○	6		8	○
7		8	○	10	○	6	
8		12	○	11	○	3	
6		7	○	7	○	6	
9	○	2		11	○	8	
8		17	○	9		11	○
12	○	10		7	○	5	
7		8	○	3		8	○
5		10	○	17	○	9	
10		13	○	4		6	○
7		10	○	10	○	7	
6		8	○	8	○	5	
8	○	6		4		15	○
2		2		5		9	○
10		10		13	○	6	
12	○	6		9		13	○
13	○	8		6		6	

勝ちチーム			負けチーム			勝ちチーム			負けチーム		
OREB			OREB			OREB			OREB		
8		○	11			3		○	9		
6			6			9	○		4		
13	○		12			6		○	7		
6			6			5		○	6		
7	○		6			8		○	9		
3		○	4			11			11		
4		○	9			8	○		5		
5		○	10			9	○		7		
6	○		4			9	○		5		
12	○		4			7		○	8		
6			6			10	○		3		
6		○	18			7	○		3		
10	○		9			7			7		
12	○		9			9		○	10		
5		○	7			8	○		3		
4		○	14			8		○	9		
8	○		7			14			14		
9	○		6			3		○	8		
6		○	19			11		○	18		
10	○		8			11	○		9		
3		○	8			11	○		6		
7	○		4			15	○		9		
12		○	17			8		○	10		
4			4			8	○		4		
5		○	6			6		○	7		
9		○	11			16	○		5		
10	○		5			17	○		11		
15	○		12			6	○		2		
4	○		3			5		○	9		
17	○		5			11	○		9		

勝ちチーム		負けチーム		勝ちチーム		負けチーム	
OREB		OREB		OREB		OREB	
10	○	5		8		8	
13	○	3		11	○	9	
10	○	9		7		10	○
3		6	○	13		16	○
4		11	○	8		10	○
9	○	3		9	○	2	
7		10	○	12		12	
20	○	5		3		11	○
6		11	○	8		12	○
4		6	○	5		5	
6	○	5		13	○	6	
18	○	11		4		13	○
4		9	○	15	○	11	
15	○	7		9	○	8	
10	○	6		13	○	10	
8	○	5		5		9	○
10	○	8		7		11	○
4		10	○	9		11	○
5		7	○	10	○	8	
9	○	7		13	○	11	
10	○	5		3		4	○
6	○	5		10		10	
11	○	3		9	○	4	
6		11	○	12		13	○
5		7	○	4		9	○
5		7	○	8	○	4	
6		14	○	7		8	○
10	○	8		8		8	
15	○	11		9	○	7	
9	○	8		6		6	

勝ちチーム			負けチーム			勝ちチーム			負けチーム		
OREB			OREB			OREB			OREB		
16	○		4			11	○		4		
19	○		11			12	○		6		
6		○	7			7		○	11		
4		○	11			5	○		3		
13	○		12			16	○		6		
6		○	13			9		○	10		
4		○	6			13	○		7		
11	○		8			13	○		3		
6		○	15			6		○	13		
15	○		7			6			6		
5	○		2			6	○		4		
8		○	10			9			9		
8	○		7			2			2		
11		○	23			7		○	8		
6		○	10			6	○		4		
5		○	18			13			13		
6		○	9			5		○	7		
5		○	12			19	○		6		
13	○		5			8	○		7		
4		○	6			6		○	9		
13	○		5			5		○	14		
10		○	11			14	○		6		
10	○		5			14	○		8		
3		○	6			10	○		8		
16	○		9			3		○	9		
9	○		6			13	○		7		
11	○		4			2		○	10		
9	○		5			10	○		3		
9		○	14			5		○	9		
13	○		7			5	○		4		

勝ちチーム		負けチーム		勝ちチーム		負けチーム	
OREB		OREB		OREB		OREB	
15	○	7		13	○	7	
10	○	3		19	○	7	
8	○	3		11	○	10	
6		11		6		12	○
2		9		11		10	
3		12		14	○	10	
7		16		6		9	○
11	○	7		6		9	○
12	○	7		7		12	○
8		9		12		13	○
7	○	4		8	○	4	
14	○	10		12	○	6	
8	○	5		7		9	○
6	○	5		12	○	8	
4		5		9	○	6	
8	○	5		9	○	4	
9	○	8		6		13	○
8	○	7		4		8	○
17	○	11		7		7	
8		8		6		6	
8		11		8		9	○
5		10		14	○	7	
11	○	10		6		15	○
6	○	3		8		8	
6		10		10	○	8	
3		12		3		11	○
6		16		11	○	8	
6		10		9	○	5	
7		9		7		9	○
4		10		12	○	6	

勝ちチーム			負けチーム			勝ちチーム			負けチーム		
OREB			OREB			OREB			OREB		
5		○	13			9		○	10		
5		○	9			7	○		6		
7		○	12			10	○		9		
6		○	9			4		○	5		
12	○		8			11	○		7		
11	○		10			10	○		7		
11		○	13			6		○	8		
8		○	12			17	○		8		
10		○	11			3		○	8		
10	○		4			7		○	8		
10	○		9			11		○	14		
9		○	11			4		○	7		
12	○		7			16	○		10		
3		○	5			13	○		3		
5		○	10			3		○	11		
12	○		8			10	○		5		
5	○		4			8		○	13		
8	○		5			9		○	12		
12	○		10			6		○	7		
5		○	9			5		○	10		
6		○	16			10	○		2		
4		○	9			7	○		6		
7			7			11	○		6		
7		○	11			5		○	7		
16	○		10			6	○		1		
18	○		5			9	○		5		
9		○	17			12		○	13		
10	○		7			9	○		6		
10	○		8			4		○	7		
6		○	12			7		○	13		

勝ちチーム			負けチーム			勝ちチーム			負けチーム		
OREB			OREB			OREB			OREB		
8	○		5			14	○		10		
12	○		9			6	○		5		
7		○	14			6		○	10		
12	○		8			14	○		6		
10	○		5			14	○		11		
9	○		6			6		○	8		
7		○	9			10	○		5		
5		○	15			7		○	10		
4		○	11			14	○		4		
6		○	8			4		○	8		
7	○		4			6			6		
9	○		4			16	○		8		
9		○	16			11	○		2		
11		○	14			9		○	10		
7		○	13			8			8		
12		○	14			11	○		7		
11			11			5	○		4		
3			3			10	○		8		
12	○		9			6		○	8		
7	○		6			7		○	9		
20	○		4			5		○	8		
14	○		7			4			4		
8	○		6			6	○		0		
7	○		5			6		○	14		
10	○		2			12	○		3		
11	○		10			5		○	7		
7	○		6			14	○		7		
13	○		0			12			12		
6		○	9			5		○	13		
4		○	12			11	○		5		

勝ちチーム			負けチーム			勝ちチーム			負けチーム		
OREB			OREB			OREB			OREB		
10		○	13			7	○		6		
8		○	14			17	○		15		
5		○	9			13	○		6		
12		○	18			13	○		11		
6	○		5			12	○		8		
7		○	8			8		○	12		
12	○		7			3		○	6		
11	○		6			14	○		4		
14	○		10			8		○	12		
10	○		5			8	○		2		
9		○	16			9	○		1		
6		○	13			3		○	15		
8		○	14			14	○		8		
9			9			6	○		5		
5		○	7			10		○	11		
2		○	9			8	○		5		
10	○		5			3		○	9		
4		○	11			11	○		8		
4		○	9			16	○		8		
4		○	6			5		○	12		
6		○	14			15	○		12		
9	○		7			11	○		9		
3		○	9			9	○		4		
7			7			10	○		8		
7		○	8			12	○		5		
9	○		3			9	○		6		
12	○		7			10		○	11		
7		○	9			9	○		8		
11	○		9			11	○		6		
9	○		4			14			14		

勝ちチーム			負けチーム			勝ちチーム			負けチーム		
OREB			OREB			OREB			OREB		
5			5			9	○		8		
6			6			4		○	6		
10	○		5			4		○	13		
9	○		6			9	○		4		
7		○	10			11		○	13		
8	○		2			14		○	16		
6		○	8			9		○	11		
6			6			5		○	11		
7	○		5			10	○		4		
7	○		6			7		○	12		
6		○	12			8	○		5		
13	○		8			9		○	14		
7	○		6			14	○		4		
19	○		12			15	○		10		
8		○	18			16	○		12		
11	○		2			2		○	13		
6	○		1			6		○	9		
9	○		7			6		○	9		
9		○	17			11	○		8		
10		○	13			5		○	14		
5	○		4			7	○		6		
9	○		6			7		○	9		
6		○	10			12	○		9		
13			13			6		○	13		
11	○		6			4		○	11		
4		○	5			14	○		7		
4		○	7			4		○	9		
6		○	14			16	○		13		
5			5			7		○	9		
13	○		3			5		○	8		

勝ちチーム			負けチーム			勝ちチーム			負けチーム		
OREB			OREB			OREB			OREB		
2		○	8			6		○	7		
4		○	7			6	○		1		
9	○		4			12	○		9		
10	○		6			5	○		4		
7		○	13			12	○		8		
12	○		8			8			8		
7		○	9			10	○		5		
10	○		7			11			11		
7		○	9			12	○		5		
8	○		6			9		○	10		
7	○		6			6		○	10		
10		○	11			8			8		
7			7			7	○		5		

条件	勝利試合数（試合）
OREB奪取数が多い方が勝ち	310
OREB奪取数が多い方が負け	269
OREB奪取数が引き分け	47

表11. 本研究における各分類

エリア	コンタクト有無	ディフェンスとの位置関係
ペイント	有	前
		横
		後ろ
		飛び込み
	無	前
		横
		後ろ
		飛び込み
ペリメター	有	前
		横
		後ろ
		飛び込み
	無	前
		横
		後ろ
		飛び込み

表12. 身長についての各項目 (cm)

項目	平均身長
リーグ全体	185.6
上位30名	196.7
全外国籍選手	204.5
全日本国籍選手	184.7

謝辞

本研究を執筆するにあたり,様々な助言や,的確かつ丁寧なご指導を賜りました倉石平教授に心より御礼申し上げます.そして,本研究のみならず,バスケットボールに関して,国内に留まらず,世界各国の貴重な情報を多く共有して頂いたことで,バスケットボールに対する理解を深めるとともに視野を広げることができました.

さらに,合同ゼミの際に,多面的視点からの的確なご指導を賜り,快く副査を引き受けて頂いた,松井泰二教授,堀野博幸教授に心より御礼申し上げます.

また,同じ倉石研究室の方々にも研究にあたりご協力を頂きましたこと感謝いたします.ありがとうございました.

最後に,大学院進学を進言して頂き,大学卒業後もアシスタントコーチとして,指導する機会を与えて頂きました中央大学バスケットボール部松山繁監督及び荻野大祐ヘッドコーチに心より御礼申し上げます.

祖父江 卓人